

## 第 23 回総合学術研究集会 in 東京

### 人間の尊厳と平和で持続可能な社会を求めて —科学者と市民の共同を探求する—

オンライン開催 2020 年 12 月 4 日 (金) ~ 6 日 (日)

## 新型コロナウイルス禍をのりこえ 23 総学の成功に力をあわせましょう

日本科学者会議会員のみなさま、市民のみなさま、新型コロナウイルスの感染拡大によって、日々の生活に、研究活動に、勉学に大きな困難を抱えつつ頑張っておられることに、心からの連帯とお見舞いを申し上げます。政府が5月25日に「緊急事態宣言」を全面解除した後もコロナ感染は終息せず、とくに7月に入って新規感染者数は前回は上回る勢いで急速に拡大し、全国累計で感染者は36,689人、死者は1,011人に及んでいます(厚労省8月2日発表)。この新型コロナウイルス感染拡大は、市民生活はもとよりわけアベノミクス主導で人員予算削減、統廃合が強制された医療、教育、福祉の分野、社会的に弱い立場の人々を直撃しています。いまのような市場原理優先の社会でよいのか、社会のあり方が鋭く問われ、“コロナ後はもっとよい社会に”との願いがひろがっています。また新型コロナウイルスの特性解明やワクチン・治療薬等の開発、感染拡大の抑制策、終息への長い過程を見通す経済再生策など、科学的な検討が必要な課題は多岐にわたり、市民の関心が高まっています。こうした諸問題に果敢に挑戦することはまさに JSA の使命であり出番です。

実行委員会ではこの23総学の機会に、「人間の尊厳と平和で持続可能な社会を求めて —科学者と市民の共同を探求する—」をテーマに、特別報告や分科会を設置し、コロナ感染拡大下の現状と国民生活、学術の課題についてさまざまな角度・視点から議論・交流を深め、市民各層と各専門分野の研究者の協同をひろげようと呼びかけたところ、2つの特別報告を設けることが出来、25件の分科会設置申込がありました。いずれも時宜にかなったたいへん有意義な内容です。

23総学準備は前半の山を一つ越えましたが、後半の最大の山場—分科会発表募集にさしかかっています。全国の全支部、全会員のみなさま、分科会発表申込の積極的なご協力をお願いいたします。

コロナ禍の収束が見通せない状況をふまえ23総学は、例外的にオンラインによる開催としました。オンライン会議に不慣れでハードルが高いと感じている方もおられるでしょうが、実行委員会は万全の体制で必要なサポートをしていく予定です。一方、オンライン開催には交通費も宿泊費も不要で遠隔地からの参加が容易という利点もあります。また参加費は無料としました。ぜひ会員外の方にも宣伝を広げ、従来の枠をこえた多くの方々とともに参加し、23総学を成功させましょう。

23総学実行委員長 松永光司

## 特別報告 12月4日(金)開催

1. 15:30～17:00

竹信三恵子(ジャーナリスト、和光大学名誉教授)

### 貧困・格差社会を切り拓くジェンダー平等

2. 18:00～19:30

中島映至(国立環境研究所衛星観測センターシニアアドバイザー・東京大学名誉教授)

### 人為起源温室効果ガスによる地球温暖化現象と気候変動の問題について

## 文化企画 12月5日(土) 19:00～20:30

クラシック世界に女性作曲家の名をほとんど見かけないのはなぜ？

ジェンダーの視点から音楽史を探究する

小林 緑(国立音楽大学名誉教授/フランス音楽史・女性作曲家研究)

### 平和とジェンダーのレクチャー・コンサート

## 分科会発表募集 9月30日までに設置責任者へ申込

設置される分科会は以下の通りです。発表希望者は、各分科会設置責任者へ申込み下さい。

### A コロナ禍を乗り越え、よりよい社会へ

#### 【A1】分科会：コロナパンデミックと日本社会

設置責任者：宗川吉汪（京都支部）

連絡先：sokawa\*snr.kit.ac.jp ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

設置趣旨：新型コロナウイルスの世界的流行(コロナパンデミック)に遭遇して、日本の社会的基盤の脆弱性が露呈した。安倍政権の右往左往ぶりは目に余るものがあった。ウイルス感染に対する公衆衛生・医療体制の不備ならびに社会的リテラシーの低さが、社会の基盤である経済・教育・福祉・防災をはじめ社会生活のあらゆる面に大混乱をもたらした。本分科会では、ウイルスの大流行に立ち向かうことのできる日本社会をどのように構築するか、討論したい。

#### 【A2】分科会：コロナ禍における学生の学び—ポストコロナを展望して—

設置責任者：細川 孝（京都支部）

連絡先：hosokawa\*biz.ryukoku.ac.jp ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**新型コロナウイルスの感染拡大によって、日本の高等教育の問題点が可視化された。それは高学費と不十分な奨学金制度、アルバイトに依存せざるを得ない学生生活などである。このようなもので当事者である学生たちが立ち上がり学費負担の軽減や給付を求める運動に取り組み、社会的な支持も得て一定の成果を勝ち取った。このような動きをポストコロナにおける大学創造にどうつなげていくのか、学生や大学院生の参加も得て議論する。

**【A3】分科会：コロナ禍を乗り越えるために国公立試験研究機関・保健所・病院はどうあるべきか**

**設置責任者：**小滝豊美（国公立試験研究機関問題委員会／茨城支部）

**連絡先：**kotaki.tunion+jsa@gmail.com ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**これまで多くの行政機関において新自由主義的な「改革」が強力に推進されてきた。その筆頭は国公立研究機関や博物館等の独立行政法人・地方独立行政法人化や国公立大学の法人化である。このような「改革」は、すでにこれらの行政機関に大きなダメージを与えてきたが、今般の COVID-19 の拡大の中で、そうした改革の弊害により国民の生命や社会経済活動が脅かされていることが誰の目にも明らかになった。新自由主義的な改革の流れを押しとどめることは必須であるが、ではその先、コロナ禍を乗り越え、国民の負託に応えるため行政機関はどのような方向を目指すべきなのか。感染症対策や公衆衛生の要である研究所、保健所および、この状況下で独立行政法人化への準備が強引に進められている都立病院・公社病院の現状からあるべきすがたを考える。

## B 個人の尊厳、ジェンダー平等、多様性の尊重

**【B1】分科会名：新型コロナ禍における女性研究者・技術者の困難と課題**

**設置責任者：**中島明子（東京支部）

**連絡先：**mamanotanuki@yahoo.co.jp ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**新型コロナ禍の感染拡大に伴い、研究・教育環境は激変し、とりわけ若手研究者や不安定な職にある人々の研究・教育の困難は大きく、正規の職にあっても、リモート授業の負担、実験・実習ができない、調査や海外渡航の中止で研究遂行が難しくなっています。同時に子育て期の女性は、保育園の休園や休校等により二重三重の負担を抱えています。本分科会では何人かから話題提供をした後、全国からの参加者と交流し、コロナ禍から見えてきた女性研究者・技術者の研究・教育改善を探りたいと思います。

## C 平和な時代を拓く

**【C1】分科会名：新型コロナウイルス危機と日本国憲法一危機便乗改憲を許さないために一**

**設置責任者：**金子勝（東京支部立正大学分会）、中野貞彦（東京支部武蔵野通研分会）

**連絡先：**s.nakano@d012.dant2.jp（中野） ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**新型コロナウイルス感染症の世界的大流行（パンデミック）は、世界各国において、その国民の生命・健康・生活と経済活動の破壊をもたらしているだけでなく、自国社会の病理をもあぶり出し、「ポ

ストコロナ社会」のあり方を、人類に問いかけている。

日本では、新型コロナウイルス危機の対処に当って、安倍内閣と自由民主党が、日本国憲法を用いて国民の生命・健康・生活や文化をまもる政治を行うことよりも、日本国憲法の中に「緊急事態条項」を取り入れる布石を打つこと(改憲)、経済活動を復活させることを最優先する政治を行い、日本社会の病理(貧困・差別・不平等・公共の貧弱など)を露呈させている。

改憲を許さないために、日本国憲法に基づく新型コロナウイルス禍等の異常自然災害の対処措置のあり方や「ポストコロナ社会」のあり方を、みなさんと検討したいと考えている。

### 【C2】分科会名:平和問題分科会

**設置責任者:** 亀山統一(沖縄支部・JSA 平和問題研究委員会)

**連絡先:** kameyama\*agr.u-ryukyu.ac.jp ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨:** 日米同盟の現状と自衛隊・在日米軍の再編強化、中国・香港・朝鮮半島・南シナ海・ロシアなどでいずれも大きな変化を見せる東アジア情勢、核兵器禁止・廃絶とそれへの逆行、ミサイル防衛と敵基地攻撃論、基地被害・環境問題、緊急事態条項など新たな装いの改憲論、新型コロナウイルス感染症の流行下での軍事活動や平和運動の変化、持続可能な社会像、補償問題、軍学共同・科学技術研究の軍事化など論じるべきことは枚挙に暇がない。本分科会は、コロナ禍の中で「コロナ後にいかなる社会を構築するか」を人びとが意識せずにいられない中で、持続可能な社会構築の骨格となる平和の問題を、多様な角度から論じる場としたい。

### 【C3】分科会名:韓国 FW 報告会

**設置責任者:** 吉村さくら(東京支部)

**連絡先:** natsumel905@gmail.com ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨:** 多くのご支援のもと、去る2020年2月25～27日にかけてJSA 院生・若手企画大型フィールドワーク in 韓国・ソウル「今、『韓日』関係を考えるー現地学習・対話から科学者の役割を考えようー」を開催しました。本分科会では、韓国FWの成果報告とFW後に問題意識を共有したメンバーで立ち上げた日韓研究会の研究報告を行います(以下、仮題)。

(1)韓国FW成果概要報告、(2)大学院生の労働者性についてー韓国大学院生労働組合との交流を通じてー、(3)韓国における親日派とは、(4)韓国での反貧困運動について

## D 地球環境の危機的状況の克服、原発問題の解決、防災・減災、災害復興

### 【D1】分科会名: 気候危機に立ち向かうー自然エネルギーと省エネ社会の実現に向けて

**設置責任者:** 河野 仁(大阪支部/ 中長期気候目標研究委員会 JSA-AC 代表)

**連絡先:** koyubi\*sensyu.ne.jp ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨:** パリ協定の目標とする気温上昇量1.5℃未満を達成するためには、温室効果ガスの排出量を2030年には現在の約半分に減らし、2050年にはゼロにする必要がある。本分科会での研究発表対象分野は次の通りである。

- ・省エネと自然エネルギーの普及のための技術、社会制度、税制度、環境政策分野の研究
- ・日本の気候変動とその影響に関する研究

- ・気候変動による集中豪雨災害、異常気象とその対策研究
- ・その他関連する研究

### 【D2】分科会名：南海トラフ巨大地震への備え

**設置責任者：**中山俊雄(東京支部)、綱島不二雄(宮城支部)

**連絡先：**otto.nakaya@gmail.com (中山)、t-mejiro\*agate.plala.or.jp (綱島)

※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**今後30年間に70-80%の確率で起こるとされる南海トラフ地震、想定される被害は、関東・東海・関西・四国・九州にかけて、都市・農村を問わず、多大な地域社会基盤の崩壊が生じ、東日本大震災を凌ぐ大災害となることが危惧されています。

JSAは、これまでに「東京の地震を考える」(1972)「東京都の地震対策への提言」(三次)「南海トラフの巨大地震にどう備えるか」を刊行、また地震学論争、原子力発電と地震、都市防災、阪神・淡路、東日本大震災、熊本地震、等に関して多様な知見を積み重ねてきました。その蓄積の上に、「南海トラフ巨大地震への備え」を意識した提言作成に向けて、その準備作業ともなるシンポジウムを開催するものです。若手研究者をはじめ多くの会員のご参加を期待します。

### 【D3】分科会名：脱原発・最終処分の課題

**設置責任者：**岩井 孝(茨城支部、原子力問題研究委員会)

**連絡先：**kp777333\*tg8.so-net.ne.jp ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**新規制基準に適合した原発の再稼働が進められ、六ヶ所再処理工場についても事実上の「合格」が出された。新規制基準に適合しても重大事故の発生が防止できないのであるから、原発再稼働も核燃料サイクルもやめるべきである。事故を起こした福島第一原発の廃炉作業は困難を極め、見通しが立たない。事故を起こしていない原発の廃炉も、放射性廃棄物や使用済燃料の処分の目処がない。脱原発・最終処分の課題を中心とした議論により、道筋を見出したい。

### 【D4】分科会名：公害・環境問題の現在

**設置責任者：**畑 明郎(滋賀支部)

**連絡先：**hata.akio\*gaia.eonet.ne.jp ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**本分科会は、各報告を通じて、国内外の公害・環境問題についての、自然科学的・社会的な現状報告を行うことで、今後、日本科学者会議として取り組むべき課題を提示することを目的に設置する。各地域での公害・環境問題の現状と課題を討論する。

## E 人間らしい労働、暮らしを守る経済、地域社会の再生

### 【E1】分科会名：日本の農と食を考える

**設置責任者：**西村一郎(東京支部)

**連絡先：**info\*nishimuraichirou.com ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**日本の農と食が資本の論理で一面的にゆがめられつつある中、種子法廃止やコロナなどによってさらに悪化することが予想されます。低い食糧自給率や高齢化する生産者など現状の問題点を

共有化し、国民の立場でのあるべき農と食のこれからについて多方面から考えます。

## 【E2】分科会名：ポストコロナ & アメリカ大統領選挙後の資本主義経済 ―世界と日本はどうなる？

**設置責任者：**本田浩邦（獨協大学）

**連絡先：**hhonda@dokkyo.ac.jp ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**コロナ危機は経済の大幅な落ち込みをもたらし、人々の労働、消費、教育など生活パターンを変え、資本主義のあり方を大きく変容させつつある。さらに 11 月のアメリカ大統領選挙の結果は、アメリカのみならず世界経済の今後の動向を大きく左右するであろう。

この分科会では、世界と日本の経済状況を考察し、これからの資本主義がどうなるか、どうすべきかを考える。3 人の経済の専門家によるポストコロナとグローバリゼーションとアメリカ経済の現状、経済政策の報告を踏まえ徹底的に討論する。

## F 科学・技術の現状批判と課題

### 【F1】分科会名：自然科学の進展を俯瞰する

**設置責任者：**青木和光（東京支部）

**連絡先：**aoki.wako@gmail.com ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**自然科学の各分野で著しい進展がある一方、専門化が進んでいるため、科学者の間で必ずしもそれを共有しにくい状況があるのではないのでしょうか。各分野の専門家が集まる日本科学者会議の特色をいかし、ここ 30 年程度における進展を研究者個人の視点でみつめなおし、それを交流することで自然科学の潮流をつかむことを目標にします。分科会では、3 人程度から「教科書が書き換えられた」「ある技術が研究を一変させた」といった事例の報告を受けたいと、参加者にも各分野の状況を発言いただきます。

### 【F2】分科会名：第 8 回複雑系科学シンポジウム―複雑系科学と 2020 年代の世界観

**設置責任者：**栗野 宏（JSA 山形支部）

**連絡先：**avanus164@gmail.com ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**複雑系科学シンポジウムとしては事実上初回となった「複雑系科学と現代唯物論」分科会が 18 総学で開催されてから、今年で 10 年がたちます。いま私たち人類は、新型コロナウイルス感染症という重大な挑戦状を突きつけられているのをはじめ、過酷さを増す自然災害や気候変動、世界的規模で進む貧富の格差拡大や覇権主義・排外主義の強まりなど、困難な課題に直面しています。本分科会では、2020 年代を迎えた現時点におけるこれらの諸課題を念頭におき、複雑系科学の視点からとりくまれた多岐にわたる研究発表を募集します。

### 【F3】分科会名：リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流 (part4)

**設置責任者：**長田好弘（東京支部）、中野貞彦（東京支部）、橋本良仁（東京支部）

**連絡先：**s.nakano@d012.dant2.jp（中野） ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**時代錯誤の愚策ともいえるべきリニア中央新幹線計画の重大な欠陥は日本科学者会議「声明」（2014.7.15）の指摘通り、工事の強行とともに明らかとなり、地域住民の生活と人権を圧迫し、深刻な不

安と恐怖を引き起こしている。

現在、国交省有識者会議の大井川水資源問題をめぐる議論がリニア計画の趨勢を決する重大要因となっている。静岡県民は、本会議の科学的根拠に基づく議論と結論を期待している。川勝知事も、工事は会議の結論が出るまで待つべきとし、リニアか水かと問われれば住民の“命の水”をとるとの姿勢を堅持し、国交省の提案に対して条理を尽くして対応している。国交省・JR 東海は、有識者会議を住民運動から隔離し、メディアの偏向を画策し、強行突破しようとしている。

「リニア開業ありき」の議論はやめよう、ポストコロナにリニアは不要、工事が大井川の中下流に影響しない根拠を示せ、「県知事だけがごねている」「県民も早く死ねば社会のためになる」などヘイトスピーチは許せない、等々。このような質問・意見・要求の科学的解明と各地の教訓を共有し、科学的知見をもって有識者会議を包囲し、国民の期待に応えた議論と結論が出せるように激励しよう。

#### **【F4】分科会名：科学技術の現状批判-日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part12-**

**設置責任者：**長田好弘（東京支部）・久志本俊弘（大阪支部）・矢作英夫（東京支部）

**連絡先：**to4ksmt@yahoo.co.jp（久志本） ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**「骨太方針2020」（閣議決定7月17日）は、「コロナウイルス感染症への対応が喫緊の課題」としながらも、医療体制（研究を含む）弱体化の政策がこの危機を深刻化させた反省はない。「デジタル化への集中投資」をおこない、この危機に乗じて財界の要求実現を一気にすすめる構えである。

コロナ禍は研究者に何を語り、問いかけているのか。政府の「専門家」とメディアは、忖度によりリスク評価を誤り、過剰な恐怖心を広げたのではないか。研究者・専門家は、とくに重要課題においては、「公開」を臆してはならない。

アジア諸国の教訓にも学び、研究者・専門家が市民と協力・連帯し、日本の医療力・情報技術をフル活用し、新型コロナウイルスの感染拡大阻止・共存（未知のウイルスを含む）のために、さまざまな角度・視点から科学技術の現状批判と交流を深めたい。キーワード：○検査制限論、○感染格差、○「専門家」の在り方、○地域に根差した研究活動、○ケア労働、○ジェンダー、○デジタル社会の危険性、○人間と自然の間合い、○一極集中からの転換

#### **【F5】分科会名：科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part13—**

**設置責任者：**長田好弘、松永光司（武蔵野通研分会）

**連絡先：**matsunaga\_mitsushi@hotmail.com（松永） ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**いまだきロマンを語れるのか。研究開発の誇大宣伝とは裏腹に、コロナ禍は日本のグローバル化社会の脆弱性と危険性、貧困の深刻さと多様さ、弱者へのしわよせ、等々を可視化し、その根源つまり歴代政権の失策をも明らかにした。厚生労働省が2010年にまとめた感染症対策に関する報告書も事実上放棄されてきた。「専門家」は往々にして、政府に都合の良いアリバイづくりに走り、メディアもそれを手伝ってきた。国民が研究者に求めるものは何か。研究課題の具体的進捗とその社会的関係との納得できる説明ではないのか。本分科会はこの目的のために発足した。意見の相違を受け入れ、専門・非専門を問わず、自由闊達に語り合うために設置してきた。新型コロナウイルスへの対応をめぐる研究者の見解は多様である。本分科会設置の趣旨を活かして、科学・技術の釣り合いのとれた総合的な発展を期して、共同と連帯の精神で、大いに語り、交流を深めたい。キーワード：○宇宙誕生の解明、○

金星のなぞに挑む、○「AIホスピタル」、○ムーンショット型研究開発、○科学技術の国際協力、○危機感を共有、○柔軟な対応、○科学技術基本法改正、○「骨太方針2020」

## G 学術研究体制の危機と大学・研究機関、研究者の権利・社会的責任

**【G1】分科会名：高等教育の危機に抗するために—コロナ危機の下、大学等で何が起きているのか、私たちは何をなすべきか？**

**設置責任者：**井原 聡（東京支部）

**連絡先：**s-ihara075\*nifty.com ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**コロナ危機の下で、学生や教員に何が起きているのか、大学の設置形態や構成員の枠を超えて考えたい。また、この6月に成立した「科学技術・イノベーション基本法」では大学の責務がイノベーション創出にあるとされ、教育・研究の多様性ととも自律性が失われかねない。官邸・内閣府の「司令塔」の指示がどこまで入り込んでいるのかも含め、総合的に検討し危機を乗り越える手立てを考えよう。

**【G2】分科会名：民主的市民性教育のために —ドイツの政治教育に学び日本への応用を図る**

**設置責任者：**神田靖子（大阪学院大学 名誉教授）、名嶋義直（琉球大学 教授）

**連絡先：**aurora@mail.zaq.jp（神田）、najimay@lab.u-ryukyu.ac.jp（名嶋）

※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**昨今の政権による民主主義崩壊の責任はこうした政権を選んだ国民にある。では、国民一人ひとりには確かな意志をもって選挙に臨んだのであろうか。残念ながら日本では国民（市民）の社会参加への訓練は徹底されていない。その点で、ドイツはナチズムの蛮行を許した反省から戦後、思考力をつけ社会参加を促す「政治教育（民主的市民性教育）」が国を挙げて行われてきた。本分科会ではその歴史や実態を紹介し、それをいかに日本社会に応用し実践できるかを検討する。

**【G3】分科会名：企業としての大学・研究機関——法人化を転じて福と成そう——**

**設置責任者：**佐々木 弾（東京大学社会科学研究所）

**連絡先：**dsasaki@iss.u-tokyo.ac.jp ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**毀誉褒貶あつた国公立大学・研究機関の法人化だが、単なる「民間活力」に留まらぬ思わぬ副産物が浮上した。それは一口に言えば、お役所でなくなったことに伴う自由権である。教職員は被雇用者として労働法上の権利保障の対象に入り、限定的にせよ副業・兼業が柔軟化される等、働き方が「公務」の特殊性・異常性から解放された。経営面では、良きにつけ悪きにつけ企業価値の向上が求められることとなった。本会では斯かる転機を発展的に善用する方向性を論じたい。

**【G4】分科会名：いま改めて研究者の権利・地位と倫理を考える**

**設置責任者：**丹生淳郷（埼玉支部）、重松公司（岩手支部）

**連絡先：**kiyoniu03@yahoo.co.jp（丹生）、sigematu@iwate-u.ac.jp（重松）

※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**22 総学では、約 40 年ぶりに全面改定された「科学及び科学研究者に関する勧告」（2017）を JSA「研究者の権利・地位と倫理」報告（2007）と対比して紹介し、研究者の権利・地

位、倫理を問いかけるとともに、今日的課題である研究倫理、研究不正などの問題を探った。23総学では、さらにこれらの課題を深めるとともに、軍学共同と学問の自由・研究者の倫理、学生の学ぶ権利、多様な研究者の権利・倫理などについても掘り下げたい。

### 【G5】分科会名：市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望

**設置責任者：**長野八久（『日本の科学者』編集委員会）

**連絡先：**jjs2007@jsa.gr.jp ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**市民と科学者を結ぶユニークな雑誌『日本の科学者』を進化、普及させ、社会発展に貢献する雑誌に育てるため、以下のような諸点から問題提起を行い、意見を交換する。1. 科学の産業化、科学者の労働者化、科学者の権利、2. 現代における科学者と市民の共同、科学と市民社会との関係、科学リテラシー、3. 現代における『日本の科学者』の役割、4. インターネットとの連結 オープンアクセス 双方向性、5. 研究者の国際連帯交流、平和への貢献、6. 現代社会における科学の課題を発掘、7. 魅力ある創造活動としての JJS 編集、8. 『日本の科学者』の普及

## H 文化、芸術、スポーツ、思想、その他

### 【H1】分科会名：文学は、疫病・大感染をどう描いてきたか—内外の文学作品鑑賞の交流会—

**設置責任者：**風見梢太郎（東京支部 武蔵野通研分会）

**連絡先：**kazami\*big.or.jp ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**海外の文学には、疫病の大流行を描いた作品がたくさんあります。また日本の文学の中にも、今回の新型コロナウイルスの蔓延を予見したかのような作品があります。死の恐怖と闘い、終わりの見えぬ疫病の闇の中に、わずかな光を見いだして懸命に生きてきた人類の足跡を、文学作品の中にさぐってみたい。話題提供の報告のあと、参加者が自由に発言できる交流会形式にしたいと考えています。

### 【H2】分科会名：優生思想の過去・現在・未来

**設置責任者：**宗川吉汪（京都支部）、黒須三恵（東京支部）

**連絡先：**kurosukrsuou@gmail.com（黒須） ※使用時は「\*」を「@」に変えて下さい

**設置趣旨：**7月上旬、政治家が高齢者に対する「命の選別」発言を行い社会問題となった。出産に関しては新型出生前診断検査によりダウン症などの染色体異常が見つかる場合と多くの場合に胎児は中絶されているなどの現状がある。このように「優生思想」が、過去の国家によるものから個人の内なるレベルへとかたちを変えて生き続けている。

そこで、本分科会では「優生思想」について、その思想誕生の歴史的経緯・背景、過去と現在の事例、これらを批判的に検討した上で今後の課題、未来について考えることにする。

## 分科会発表を募集します（9月30日まで）

- 分科会発表を希望する方は、分科会発表申込書に記入し、2020年9月30日までに、分科会設置責任者宛てに送付してください。
- 分科会発表申込書は、JSAサイト <http://www.jsa.gr.jp> の23総学のページにあります。
- 予稿原稿はWordとPDFで作成し、その両方を11月15日までに分科会設置責任者に提出。
- 予稿原稿（A4版2枚）のテンプレートも上記23総学のページにあります。

## 23 総学の日程（概要）

| 2020年<br>12月 | 午前<br>(9:30～<br>12:00) | 午後Ⅰ<br>(12:50～<br>15:20) | 午後Ⅱ<br>(15:30～18:00)                                            | 夜間<br>(19:00～21:30)   |                |
|--------------|------------------------|--------------------------|-----------------------------------------------------------------|-----------------------|----------------|
| 1日(火)        |                        |                          | 分科会 op1                                                         | 分科会 op2               | 分科会<br>予備日     |
| 2日(水)        |                        |                          | 分科会 op3                                                         | 分科会 op4               |                |
| 3日(木)        |                        |                          | 分科会 op5                                                         | 分科会 op6               |                |
| 4日(金)        |                        | 分科会Ⅰ                     | 開会式 (15:15～15:35)<br>特別報告Ⅰ (15:40～17:10)<br>特別報告Ⅱ (18:00～19:30) |                       | 集中<br>開催<br>期間 |
| 5日(土)        | 分科会2                   | 分科会3                     | 分科会4                                                            | 文化企画<br>(19:00～20:30) |                |
| 6日(日)        | 分科会5                   | 特別報告Ⅲ                    | 分科会交流会<br>(15:30～17:30)<br>・<br>閉会式<br>(17:30～17:40)            |                       |                |

分科会設置の基本は12月4～6日ですが、分科会設置責任者が希望する場合、予備日である1～3日の分科会 op1～op6 から選択できます。

### 予稿集は電子媒体（PDF）で発行、各自 download

- 発表者から提出された予稿原稿（Word と PDF）をもとに、実行委員会では予稿集 PDF 版を作成し、JSA ホームページの23 総学ページにアップします。（11月30日を予定）
- 参加者はそれぞれ JSA ホームページの23 総学ページにアクセスして予稿集 PDF 版をダウンロードして入手ください。予稿集 PDF 版ダウンロードは無料です。
- なお、予稿集印刷版（予稿冊子）は有料頒布とし、参加登録時（or 分科会発表申込時）に希望者の注文を受け、23 総学終了後に総学の記録を追加編集して印刷し、2021年1月末ころ希望者へ送付の予定です。予稿集印刷版の頒価は実費相当で2000円程度の見込みです。

### 参加費は無料、募金にご協力を

オンライン開催とする今回の総学では、これまでかかっていた様々な費用を削減できるため、参加費は無料とします。オンライン化で費用は削減されますが、通信費、印刷・宣伝費等一定の共通費が必要です。これらは JSA 全国の総学予算とみなさまからの募金で賄う予定です。別途お願いする募金にご協力ください。

## オンライン参加の方法

23 総学の企画はこれまでと同じくあらかじめ決められたプログラムに沿って実施します。  
オンライン・ソフトは Zoom を使用し、使用契約は実行委員会が行います。

- (1) 参加希望者は、事前に実行委員会ホームページで参加登録を行います。参加登録が完了すると実行委員会は参加者に企画の URL (ウェブ上での接続先) を公開します。
- (2) すべての参加者は、自宅などから参加したい企画の URL にアクセスして参加します。
- (3) アクセス後は分科会設置責任者や司会者の指示に従って下さい。

## オンライン参加でできること

- (1) 報告者は PC のマイクを通じて音声で内容を伝えながら、同時に「画面共有」機能を使って、アクセスしている参加者にスライド（報告レジュメや資料など）を見せることもできます。
- (2) 参加者は自分の情報端末（PC など）を用いて、画像と音声で報告や講演を見聞します。  
「画面の分割機能」を使って参加者の画像を見ることもできます。
- (3) 参加者は、司会の指示に基づいてマイクで発言したり、チャット機能（文字入力）を使って意見を出し、討論に参加することができます。

## 分科会のオンライン開催を全面的にサポート

分科会の開設日時に、参加者（分科会設置責任者、座長、報告者を含む）が、各々自宅などから分科会 URL にアクセスして、ウェブ上で報告と討論を行います。

実行委員会は、この分科会のオンライン開催を全面的にサポートします。

- (1) Zoom ソフトの使用契約、オンライン開催の立ち上げは実行委員会が行います。
- (2) 分科会開設時間帯に実行委員会の担当者が待機し、トラブル等に対処します。
- (3) Zoom の体験会を開設：分科会設置責任者や報告者を主な対象として、今回使用するオンライン・ソフト Zoom の体験会を設ける予定です。日時は相談の上。
- (4) 分科会ごとに予行演習を行うことを推奨し、実行委員会担当者がこれを補佐します。

## サテライト会場など、多様な参加を

参加費無料を活用し、企画テーマに関心のある様々な人々（非会員も）を気軽に誘って下さい。  
また、例えば各支部の会議室や会員の研究室・自宅などでネット環境のある場所に複数名が集まる場合は（ここではこれをサテライト会場と呼びます）、複数名で1つのPCを共用して参加する方法も考えられます。オンライン会議に不慣れな人も参加しやすく、お勧めです。

## 今後のスケジュール

- 8月10日 3rd サーキュラー発行(分科会発表募集)
- 9月30日 分科会発表者の募集締切
- 10月20日 分科会設置責任者が分科会プログラムを提出
- 11月10日 4th サーキュラー(プログラム発表、参加呼びかけ)
- 11月10日～15日 分科会設置責任者へのZoom体験会(希望者)
- 11月15日 発表者から分科会設置責任者への予稿原稿提出期限  
(予稿原稿はA4版2ページ、Word版とPDF版の両方を提出して下さい)
- 11月16日～30日 分科会単位で予行演習、全体会予行演習
- 11月17日 分科会設置責任者は実行委員会へ予稿原稿をまとめて提出  
(Word、PDFとも提出して下さい)
- 11月30日 予稿集PDF版をJSAホームページにup。参加者ダウンロード開始
- 12月4日～6日 23総学(オンライン開催)
- 2021年1月中旬 予稿集冊子印刷版下完成(23総学記録挿入)
  - 1月下旬 予稿集冊子印刷納品、発送
  - 1月末 実行委員会総括会議(オンライン開催)

## 第23回総合学術研究集会実行委員会 (7月31日現在、五十音順)

**実行委員**：青木和光(東京支部事務局次長)、亀山統一(沖縄支部)、河野 仁(研究企画部)、小滝豊美(茨城支部)、後藤仁敏(神奈川支部)、☆佐久間英俊(東京支部事務局次長)、○重松公司(研究企画部長)、丹生淳郷(埼玉支部)、◎松永光司(東京支部代表幹事)、三木敦朗(長野支部)、矢田俊文(新潟支部)、○米田貢(東京支部事務局長)

**現地実行委員**：小尾晴美(東京支部)、衣川清子(東京支部常任幹事)、中川 功(東京支部)、中島明子(東京支部常任幹事)、中西大輔(東京支部)、中野貞彦(東京支部常任幹事)、森原康仁(東京支部事務局次長)、山村延郎(東京支部幹事)、吉村さくら(東京支部常任幹事)

◎：実行委員長、○：副実行委員長、☆：事務局長

日本科学者会議 第23回総合学術研究集会実行委員会  
〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-15 HYビル(茶州ビル)9階  
Tel：03-3812-1472 Fax：03-3813-2363 e-mail：23sogaku@jsa.gr.jp